
来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長

浅沼 一成

第24回の研究助成発表・贈呈式の開催に当たりまして、厚生労働省を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、本日助成を受けられた皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

また、ヘルスリサーチフォーラムは今回で24回目、ほぼ四半世紀ということですが、これは、これまで長きにわたってフォーラムの運営に当たってこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆さまのご努力・ご尽力とともに、選考委員の先生方や関係してこられた方々のご支援の賜物でございます。改めまして、感謝と敬意を表します。

さて、本フォーラムが始まった約20年前は介護保険の制度化や「新エンゼルプラン」が策定された頃で、既に少子高齢化が大きな問題となっていました。その頃と比べて、医療技術は目覚ましい発展を遂げ、最近ではゲノム医療や、AIなどの先端技術が話題となっています。こうした医療技術が普及することで、平均寿命もさらに延びていくと期待されている状況です。

そのこと自体は大変喜ばしいのですが、少子高齢化が進んだことによって、わが国の労働力人口の減少による経済的な影響、慢性疾患の罹患率の増加、介護を必要とする方々の増加など、難しい問題も生じてきています。国といたしましても、健康寿命を延伸するとともに、今後はお一人お一人のQOLの向上を支えることが大きな課題となっています。

そのような中、ヘルスリサーチという領域は、医学だけに留まらず、介護をはじめとするさまざまな学問領域を統合して、国民の皆さまのQOLの向上につなげていくものです。ぜひとも、このヘルスリサーチを発展させていただくことで、保健、医療、福祉の各分野に貢献をしていただきたいと考えている次第です。

本年度24回目の助成をお受けになられた皆さまが、実りのある研究を実施していただくことで、今後のヘルスリサーチを支えてくださるものと確信しております。また、本フォーラムも、この先30年・40年と続けていただき、新たな研究成果を生み出し続けていただけることを期待しているところです。

結びとなりますが、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のますますのご発展と本日まで参加された皆さまのご活躍を心から祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。